

# JSET

No.138

2005-7-13

日本教育工学会ニューズレター

JAPAN SOCIETY FOR EDUCATIONAL TECHNOLOGY

事務局：〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

電話 / FAX : 03-5740-9505 e-mail : office@jset.gr.jp

日本教育工学会ホームページ http://www.jset.gr.jp/

ISSN 1340-9913

## 日本教育工学会の会長として

あかほりかんじ

赤堀侃司（東京工業大学）

### 歴代会長へのお礼

今回の役員改選の選挙によって、第5代日本教育工学会の会長に選ばれましたが、まず始めに、清水康敬前会長に、心から厚くお礼申し上げます。なによりも、すべてお膳立てをしていただき、学会の体制を作られた前会長に、本当に驚嘆しております。

東京工業大学には、坂元昂第2代会長、清水康敬第4代会長など、並はずれて優れた人材がおられて、本学会に貢献されてきました。歴代の卓越した会長には、正直なところ、どうしても及ばないこと、力量がないこと、自信がないことなど、とても会長の器でないと思っていましたので、戸惑っております。しかし、確実に時間が経過して、ニューズレターの編集委員会から原稿依頼が来て、ともかくバトンタッチするのだと覚悟しました。日頃からお世話になっている水越敏行第3代会長からも、協力するから学会のために頑張るように言われ、本当に恐縮しました。歴代の会長の先生方、どうか、よろしく申し上げます。

### 3人の副会長の協力で

そこで、副会長を3名をお願いいたしました。永野和男、山西潤一、矢野米雄の先生方です。私の力量不足をなんとか副会長でカバーしていただきたいと思い、協力をお願いしましたが、3人とも、大学の運営に関わっておられ、きわめて忙しい身であるにもかかわらず、ご快諾をいただきました。私も、2年間理事を離れていましたので、最近の情勢がわからず、学会運営の感覚が鈍っており、どうしても協力体制が不可欠なため、ありがたく思っています。それから、学会は基本的にボランティアがベースになるので、理事の皆さん、評議員の皆さん、委員会の皆さんのみならず、会員一人一人のご協力を頂かなくては、健全な運営ができません。どうか、皆さん、よろしく申し上げます。

#### 本号目次

日本教育工学会の会長として-----	1	研究会の開催案内 / 発表募集 / 報告-----	12
第21回全国大会のお知らせ(第3報)-----	3	秋の合宿研究会のお知らせ(第2報)-----	14
査読希望種別「論文または資料」の廃止について---	11	第10期第16回理事会議事録-----	15
事務局移転のお知らせ-----	11	新入会員 / 学会日誌等-----	16

## 会員数の増大を

私は、他学会の理事会に出て、驚いたことがあります。見事なほど、会員が増大していたのです。それは、並はずれた素晴らしい企画と実行力でした。それを目の当たりにして、なんとか本学会も会員数を増加させたいと思うようになりました。そのためには、なにか戦略が必要で、その相談もしたいと思います。あの学会に入れば、なにか役立つ、最新の情報が得られる、優れたアイデアが得られるなど、何かメリットがなければなりません。現在は、会員が、学校関係に限られているような気がします。これを、企業にも研究機関にも、広げたいと思います。このため、企業関係の学会員にも、ご協力をお願いしたいと思います。

国立大学が法人化して強く感じることは、私達教員にも、運営する、マネジメントする、感覚が必要だということです。考えてみれば、これまでも、研究室を運営してきました。その運営感覚は、研究室だけでなく、大学、学会、委員会など、あらゆる組織や活動に不可欠な感覚です。是非、企業の方の優れた経営感覚に、学会も学びたいと思っています。

## 事務局の体制について

どの組織も、財政基盤を含めて、安泰でなくなってきました。絶えず、経営危機にさらされていると思います。このたび虎ノ門のビルから、基本的に事務局が離れて、分散して学会事務を実施することになりました。まだとまどっているのが現状ですが、なんとか皆さんのご協力で乗り切りたいと思います。永野副会長も、清水前会長も、いくつかの仕事がマニュアル化し、IT化を促進すれば、どこでも引き受けられるようになるので、そのための試験をしていると考えればいいと言う点で、一致しました。どの仕事も、どの組織も、改革や変革が出てきます。なんとか、取り組みたいと思っています。

## 国際化に向けて

企業では、グローバル化が当然になり、優れた素質を持っていれば、中国、インド、アメリカ、韓国など、国籍を問わず受け入れます。それだけ、厳しい競争になっています。その波は確実に、大学、学校教育にも及んでくることは、必至です。優れていること、それは、国籍を問わないことは当たり前であって、優れた研究は、国を超えて評価されるはずで、教育工学の果たす役割は大きく、これからは、アジア、オセアニアなどの教育工学会と連携できればと思います。また、アメリカを中心とする国際会議などとも、積極的に研究交流をしたらどうかと思っています。幸い本学会には、国際的に通用する仕事をされている会員がおられますので、このような面にも積極的に関与したいと思っています。

## これまでを振り返って

これまでを振り返ると、昨年9月に、第20回の記念大会が東京工業大学で開催されたことが、つい昨日のように思い出されます。会員の皆様のおかげで、1100名を超える参加者を得て、会場校として大変嬉しく思いました。さらに、振り返ってみると、霞ヶ関ビルの35階の会場で、溢れるばかりの人と、蒸し返すような人いきれの中で、熱く語った学会設立のシンポジウムが開かれ、事務局を仕切っていた、当時の東京学芸大学の井上光洋先生が興奮していた20年前のことを、思い出します。

ようやく成人式を迎えた本学会が、今後どのような発展をするのか、どのように教育界や産業界に貢献できるのか、未知の部分が多いですが、会員の皆様と共に、努力していきたいと思います。何よりも、会員の皆様が、面白い研究だ、役立つ研究だ、知的な好奇心が得られる、議論することが楽しい、発表したい、と思って頂くことだと思います。

どうぞ、よろしく申し上げます。

# 日本教育工学会 第21回全国大会のお知らせ

(第3報)

日本教育工学会第21回全国大会を、下記のように徳島大学において開催します。多くの方々のご参加をお待ちしています。また研究発表につきましても、奮ってご応募ください。なお、早めにご準備いただくために、課題研究テーマ、一般研究テーマ及び発表申し込み手続きをこのニュースレターでお伝えいたします。

## 1. 開催期日・会場

期日：2005年9月23日(金)～25日(日)(3日間)

会場：徳島大学工学部(常三島キャンパス)

〒770-8506 徳島市南常三島町2-1(JR徳島駅より徒歩15分,徳島空港よりバス30分)

<http://www.tokushima-u.ac.jp/>

## 2. 大会日程

第1日 9月23日(金)	第2日 9月24日(土)	第3日 9月25日(日)
9:30～10:00 受付	9:00～9:30 受付	9:00～9:30 受付
10:00～12:00 一般研究発表1	9:30～12:30 一般研究発表3	9:30～12:00 一般研究発表4
12:00～13:30 昼食	12:30～14:00 昼食・理事会	12:00～13:00 昼食・
13:30～15:30 シンポジウム1	14:00～14:30 全体会	大会企画委員会
15:40～18:10 一般研究発表2	14:30～17:00 シンポジウム2	13:00～15:30 課題研究発表
	17:00～18:00 移動	
	18:00～20:00 懇親会	

\*プログラム編成によっては、時間帯が若干変わることもあります。

また、企業展示は、大会開催期間中終日催されます。ぜひ見学にお立ち寄り下さい。

## 3. 各セッションについて

### (1) シンポジウム

#### シンポジウム1

##### シンポジウム1A 教育・学習環境における「ユビキタス」とは？

コーディネータ：矢野米雄(徳島大学)、松居辰則(早稲田大学)

登壇者：中村嘉志(産業技術総合研究所)、大島純(静岡大学)、宮田仁(滋賀大学)

余田義彦(同志社女子大学)、稲垣成哲(神戸大学)、緒方広明(徳島大学)、山内祐平(東京大学)

携帯電話、PDA、RFID、ウェアラブルコンピュータなどの技術進歩(高機能、小型化、低価格化)により、実環境におけるユビキタス環境構築の可能性が急速に高まってきている。しかしながら、これらの技術の教育環境、学習環境への効果的な適用に関しては多くの本質的な課題が存在する。そこで、本シンポジウムでは、ユビキタス情報技術、学習理論・学習科学、教育実践からのニーズの各側面からの研究者・実践者による話題提供を中心に「教育・学習環境における『ユビキタス』とは何か？」というテーマについて議論を行いたい。教育・学習環境における「ユビキタス」の本質を認識した上での、ユビキタス技術の教育・学習利用に必要な基盤技術、そこで展開される学習の理論、そして効果的な実践へと議論を接続したい。登壇者には、以下のような内容での話題提供をお願いしている。

- ・「ユビキタス」を実現する技術の観点から
- ・学習科学・学習理論の考える「ユビキタス」
- ・「ユビキタス」な学習環境の実践現場から(3件程度)
- ・「ユビキタス」研究・実践の国際動向

なお、このシンポジウムは課題研究(ユビキタス技術の教育利用)と連動して開催する。

## シンポジウム 1B 学力向上をめざした授業実践

コーディネータ：中川一史（金沢大学），吉崎静夫（日本女子大学）

登壇者：風間寛司（新潟市立宮浦中学校），生田孝至（新潟大学），  
酒井達哉（兵庫県篠山市立今田小学校），村川雅弘（鳴門教育大学），  
佐藤幸江（横浜市立大口台小学校），中川一史（金沢大学）

指定討論者：澤本和子（日本女子大学）

学力低下が叫ばれる中，全国各地には学力向上を目指した優れた授業実践がある。「個に応じた指導の充実を図る数学の授業」「教科学習との連携を目指した総合的な学習の授業」「デジタルコンテンツを用いた国語・図工の授業」を授業者に映像などで紹介してもらうとともに，関係する研究者にそれらの授業実践の意味を解説してもらう。その後，それらの事例を手がかりに，「学力を向上させる授業とは何か」を参加者（小中高校の教師を特に歓迎）全員で考え，討論する。

## シンポジウム 2 学力向上と教育工学

コーディネータ：鈴木克明（岩手県立大学），園屋高志（鹿児島大学）

登壇者：清水康敬（メディア教育開発センター），渡辺良（国立教育政策研究所），  
永野和男（聖心女子大学），木原俊行（大阪市立大学）

昨年 11 月に，OECD の PISA の学力調査国際比較，TIMMS の国際比較の結果が相次いで出され，日本の子どもの学力低下問題が再燃した。ICT を活用して「わかる授業」を行うことによって学力が向上する可能性があり，その検討が学会レベルでも行われている。文部科学省における教育の情報化に関する今後の展開についての検討会では，ポスト 2005 年度の情報化推進策，情報教育の在り方が話し合われているが，ここでも学力向上がキーワードとなっている。本シンポジウムでは，学力向上についての教育工学的な提言を目指して，登壇者とフロアーで議論を深めたい。

### （ 2 ） 課題研究発表

以下のように 7 件のテーマが設定されています。

#### K-1 デジタルコンテンツ活用実践の評価

コーディネータ：中山実（東京工業大学），余田義彦（同志社女子大学）

デジタルコンテンツを活用した学習が，様々なアプローチで進められてきた。これらの活用は，実験的な開発や試験的運用に留まらず，実際の教育場面でも成果を挙げている。このため，デジタルコンテンツの研究は，確実な学習効果を上げるための方法論やその評価測定に移っている。

そこで本課題研究では，デジタルコンテンツを活用した実践とその学習効果測定あるいは評価に焦点をあてた成果発表を募集する。効果的なデジタルコンテンツ活用実践，学習効果を得るためのデジタルコンテンツ開発，デジタルコンテンツ活用による教育効果など，デジタルコンテンツの効果を評価するための授業研究モデルや効果測定手法の開発およびその結果報告などについての応募を期待している。

## K-2 小中高における情報教育の指導内容と系統性の再構築

コーディネータ：堀田龍也（静岡大学），小泉カー（尚美学園大学）

文部科学省は 2004 年 12 月に「初等中等教育における教育の情報化に関する検討会」を組織した。その検討課題のひとつに、今日の情報社会の現実に対応できる情報教育の指導内容の見直しがある。情報社会の進展のスピードは速く、光と影にかかわらず児童生徒を取り巻く事情は激変している。情報社会を生き抜く人材の育成は、情報教育の指導内容を不断に捉え直し、初等中等教育における情報教育の系統性を見据え、かつ柔軟性のあるものに保つことなしには不可能である。

そこで本課題研究では、初等中等教育段階における情報教育の指導内容と系統性の再構築に向けた実践的な研究を募集し議論を深めたい。小中高での情報教育の新しい指導内容や枠組みに関する実践例、各教科および総合的な学習の時間を視野に入れた学校カリキュラムの開発例、中学校「技術・家庭」および高等学校「情報」における先進的な指導内容や指導法の試み、情報教育を基盤とした校種間接続のあり方などを取り上げたい。

## K-3 教師の ICT 活用指導力の育成 - その実際、成果と課題 -

コーディネータ：野中陽一（和歌山大学），木原俊行（大阪市立大学）

前回の大会における特別講演及びパネルディスカッション「教員の ICT 活用指導力の目標と研修のあり方～米国の ISTE の事例を参考に～」を踏まえ、教師の ICT 活用指導力の育成と評価、とりわけ教員養成、教員研修の在り方についてさらに理論的・実践的に検討したい。まず都市部を中心とした教員採用の拡大に伴い、教育の情報化を推進する即戦力の供給が望まれていることから、教員養成における、そうした力量の形成に関する方策やシステム、カリキュラムに関する研究の報告を期待したい。また、教育委員会や学校、あるいは各種組織や団体などが取り組む現職教員の研修や、管理職やコーディネータを対象とする研修に関する研究についても積極的に取り上げ、それらの営みの実際、これまでの成果と課題について、議論を深めたい。

## K-4 高等教育における e-Learning の展開とその評価

コーディネータ：赤倉貴子（東京理科大学），久保田賢一（関西大学），米澤宣義（工学院大学）

大学全入時代を目前にし、高等教育機関に求められる機能は変化しつつある。そのような背景の下、「e-Learning」は、新しい教育・学習環境実現をもたらすものとして期待が寄せられているが、その導入効果については十分に議論されているとは言い難い。e-Learning を新しい教育観に基づく教育・学習環境を実現するための手段として位置づけるためには、従来の教育・学習環境における問題や課題を分析し、それらの問題や課題に対して、e-Learning をどのように導入すれば、どのような効果を得ることができるのかを整理しておくことが重要であろう。

そこで、本課題研究では、高等教育の場に e-Learning を実際に導入・実践して得られた効果に関する知見を集めて整理し、今後、高等教育機関では、どのように e-Learning を導入・実践していくべきかについて、教育評価の側面に重点を置いて検討したい。ここでの「e-Learning」とは必ずしも「遠隔」という意味ではなく、情報通信技術を利用した教育・研修形態として広義に捉えていただき、内容的にも広い分野からの発表を期待する。

## K-5 ユビキタス技術の教育利用

コーディネータ：山内祐平（東京大学），金西計英（徳島大学）

携帯電話・PDA やウェアラブルコンピュータ，RFID など，いわゆるユビキタスコンピューティングの技術が急速に発展している。このセッションでは新しく登場したこれらの技術の教育利用の可能性について，昨年を引き続き以下の2つのポイントについて議論をしていきたい。

### 1) 教育利用の基盤技術

ユビキタス技術の教育利用にあたって必要な基盤技術の開発，実証実験などに関する報告

### 2) 教育実践からのニーズ

ユビキタス技術を利用した教育実践の報告，実践から見えてきた可能性や課題に関する知見など

昨年度のセッションにおいて，従来からあるPCやインターネットなどを利用した学習

との違いをどこに見つけていくかという議論が行われた。本年度の報告には，ユビキタスならではの付加価値に関する主張があることが望ましい。

## K-6 教育分野における先端技術の活用

コーディネータ：前迫孝憲（大阪大学），池田満（北陸先端科学技術大学），林敏浩（香川大学）

本課題では，教育分野に関わりのある様々な先端的な技術に関して知見を交換し，今後の教育工学分野での展開について議論したい。例えば，標準化・オープンソースの普及は，学習コンテンツリポジトリ・e-Learningプラットフォームアーキテクチャに新しい展開をもたらしつつある。さらに，そのような情報処理技術を基礎にして，学習コンテンツデザイン，学習評価，開発体制にも新しい試みが散見できる。また，脳機能に関する研究分野では，教育の革新につながりうる成果がみられる。本課題では，このような先端技術に関する研究成果，新しい展開につながる理論・アイデア，先端技術を利用した教育実践に関する発表を広く公募（一部依頼）する。

## K-7 教育を支援する機器・ソフトウェア等の商品の企画・開発の意図とその成果

コーディネータ：大久保昇（内田洋行），小林正幸（日本電気），奥田聡（富士通），  
高畑大（東京書籍），吉田哲平（学習研究社）

教員の指導支援や学習者の支援を目的に，ICTを教育に応用したハードウェアやソフトウェア，コンテンツ，運用サポートなどが企業から有償で多数提供されているが，企業と教育現場の間における考え方の違い，誤解から，十分に理解されて活用されているとは限らないのが実情である。本課題研究では，企業の研究者，企画者，開発者，運用担当コーディネータ等からの企画・開発の意図と導入後の成果の発表をもとに，企画・開発に係わる様々な課題について企業，教育現場，研究者の間で議論することによって，今後の製品開発や，現場での運用に役立てたいと考える。

発表では，開発過程において現場のニーズをどのように掴み，どのような効果を狙って開発したか，現場では意図するとおりに使われたか，また，その後の利用者の要望を受けてどのように製品に反映してきたのか，などを特にお願いをしたい。多くの企業の研究・企画・開発・サポートエンジニア関係者からの応募を期待している。なお，どのように進めるべきかという研究も歓迎する。

### (3) 一般研究発表

一般研究発表は以下のテーマのセッションで行われます。セッションは申し込みの状況に応じて統合・分割などの調整を行うことがあります。なお、「その他」を選んだ場合は、分野及び想定されるセッション名を記述していただくことになります。

(1)語学教育・国際理解 (2)情報教育 I(情報活用能力の育成等) (3)情報教育 II(教科指導等) (4)メディア教育・メディアリテラシー (5)教師教育 (6)特別支援教育 (7)生涯学習・企業内教育 (8)看護・福祉教育 (9)教育評価・データ解析 (10)授業研究 (11)授業設計・実践 (12)高等教育における教育方法 (13)教育ソフトウェア開発・評価 (14)学習コンテンツ開発・評価 (15)遠隔教育・遠隔学習 (16)認知モデルと知的学習支援システム (17)インターネットを利用した授業実践 (18)教育メディア (19) e-Learning (システム) (20) e-Learning (運用・評価) (21)協調学習と協調作業 (22)その他

### (4) English Session

発表及び質疑応答が英語で行われます。本セッションは教育工学研究の国際的流れに対する本学会の寄与であるとともに、国際的な場において研究発表ならびに討論を有意義なものとするための、とくに若い研究者に対する訓練の場でもあります。このような趣旨をご理解いただき、このセッションに奮ってご応募いただきたいと思います。なお、発表は一般研究発表1～3のいずれかのセッションと同じ時間帯で行われます。

\*本大会では、自主シンポジウムのセッションは設けません。

#### 発表時間について

発表時間は以下の予定です（発表件数に応じて変わる場合があります）。

[課題研究発表] 課題研究発表の趣旨説明10分 研究発表各15分 総合討論1時間程度

[一般研究発表] 発表15分 質疑応答5分

[English Session] 発表15分 質疑応答5分

### 4. 大会までのスケジュール

7月8日(金)	課題研究採否決定通知
7月11日(月)	事前参加登録受付開始 課題研究発表原稿(2又は4ページ)及び 一般研究発表/English Session原稿(2ページ)提出開始
7月29日(金)	課題研究発表原稿及び一般研究発表/English Session原稿提出締切
8月26日(金)	参加費等事前送金期限(これ以降は送金しない)

### 5. 大会への発表申し込み

#### (1) 発表者の資格

- ・[発表者]は、本学会の会員に限ります。ただし、会員以外が連名者となることは、差し支えありません。ここでいう[発表者]とは、ファースト・オーサー、あるいは連名者という意味ではなく、大会当日発表される方を意味します。
- ・この会員には、発表申し込み時に入会される方も含みます。ただし、発表原稿受付の段階で[発表者]が年会費を納入されていない場合には発表原稿を受け付けません。なお、昨年度の第20回大会から、JSETホームページ大会関係部分にて指定される「発表申し込み」の登録をしていただくことになりましたので、その登録時に会費納入状況がチェックされます。事前に会費の納入をお願いします。ただし、7月11日から稼働させる予定のクレジットカード支払いシステムを利用された場合にはその時点で会費納入となります。
- ・大会企画委員会が特に発表を依頼した場合は、この限りではありません。

## (2) 発表申し込み件数の制限

- ・ 会員は、[課題研究・一般研究・English Session]に、それぞれ1件(1人合計最大3件)を発表者として申し込むことができます。
- ・ 連名者の発表件数には、制限はありません。
- ・ 類似な内容、シリーズ的な内容を複数の発表者に分割して申し込むことはできません。同一発表者が課題研究と一般研究に申し込む場合も同様です。
- ・ [課題研究]は不採択になることがあります。その場合は[一般研究]として申し込むことができますが、既に[一般研究]にも発表を申し込んでいる場合には、それを取り下げる必要があります。

## (3) 課題研究の原稿提出(発表申し込みの登録)方法

課題研究に申し込まれた発表は、現在、大会企画委員会が発表の可否について審査しています。発表の採否は、発表内容だけでなく、全体の発表件数も考慮して決められます。7月8日(金)までに、それを、電子メールで申込者に連絡します。課題研究に採択された場合、最終原稿を下記により提出してください。

- ・ A4サイズで2又は4ページ。原稿見本(本号にも掲載)、またはJSETホームページ大会関係部分に示される内容に従って作成してください。
- ・ JSETホームページ大会関係部分から、7月29日(金)までに、最終原稿のファイルを送信していただきます。
- ・ 発表時間の希望には応じられません。

## (4) 一般研究及びEnglish Sessionの発表申し込み及び原稿提出方法

- ・ JSETホームページ大会関係部分から、7月29日(金)までに、原稿を提出してください。事前の発表申し込みはありません。この提出によって、発表申し込みとします。
- ・ 一般研究とEnglish Sessionの原稿は共に、A4サイズで2ページです。1ページのものは受け付けません。原稿見本またはJSETホームページ大会関係部分に示される内容に従って作成してください。
- ・ 発表日時の希望には応じられません。

## 6. 会場の設備について

すべての会場に、プロジェクタ、OHPを準備いたします。各会場に発表用パソコンは用意いたしません。パソコンは各自でご持参下さい。発表会場にはインターネットにアクセスできる環境は用意されていません。機器の利用確認は、当該の発表セッション開始5分前までに発表者の責任で完了してください。

## 7. 企業の展示について

大会期間中、企業による展示も行います。出展を募集いたしますので、ご希望の方は下記へお問い合わせください。

〒770-8506 徳島市南常三島町2-1

徳島大学 工学部 知能情報工学科 矢野研究室 気付

日本教育工学会第21回全国大会 実行委員会事務局 宛

E-mailでの問い合わせ先: jset2005@is.tokushima-u.ac.jp



## 8. 大会への参加申し込み

参加申し込みは、参加費の振込みによって受付とさせていただきます。本号に同封されている郵便振替用紙に、参加者氏名、所属、連絡先、支払内訳をご記入の上、8月26日（金）までに参加費等をお振込みください。それ以降は、振込みをなさらないで下さい。大会当日、会場にて、「当日参加」として受け付けます。

なお、参加費等の納入につきましては、オンライン受付及びクレジットカードによる支払いシステムを7月11日から稼働させる予定です。このシステムの利用方法につきましては、電子メールアドレスを登録されている会員には電子メールでお知らせします。また、JSET ホームページにて、後日、ご案内いたします。クレジットカードで送金された場合も、送金によって参加受付となります。その場合の送金締め切り期限も、8月26日（金）です。

大会参加費 事前 3,000 円（一般） 2,000 円（本学会学生会員）

当日 4,000 円（一般） 3,000 円（本学会学生会員）

論文集代 事前 4,500 円

当日 5,500 円

懇親会費 事前 5,000 円

当日 6,000 円

論文集送料 800 円（参加しない場合）

## 9. 宿泊案内について

大会企画委員会・実行委員会では幹旋・紹介は致しません。先のニューズレターに、東急観光(株)徳島支店の方からの宿泊案内を同封しましたので、詳細はそちらをご覧ください。なお、この件に関するお問い合わせは、東急観光(株)徳島支店（Tel.088-622-8991 担当：宮崎，上中）まで直接お願いします。

## 10. 問い合わせ先

大会全般に関しては以下にお問い合わせください。

日本教育工学会 大会企画委員会問い合わせ用アドレス：jet2005@mr.hum.titech.ac.jp

大会企画委員会 委員長：鈴木克明（岩手県立大学）

副委員長：伊藤紘二（東京理科大学） 木原俊行（大阪市立大学）

委員：

赤倉貴子（東京理科大学） 池田満（北陸先端科学技術大学）

大久保昇（内田洋行） 奥田聡（富士通） 金西計英（徳島大学）

久保田賢一（関西大学） 小泉力一（尚美学園大学） 小林正幸（日本電気）

園屋高志（鹿児島大学） 高畑大（東京書籍） 中川一史（金沢大学）

中山実（東京工業大学） 野中陽一（和歌山大学） 林敏浩（香川大学）

堀田龍也（静岡大学） 前迫孝憲（大阪大学） 松居辰則（早稲田大学）

室田真男（東京工業大学） 矢野米雄（徳島大学） 山内祐平（東京大学）

吉崎静夫（日本女子大学） 吉田哲平（学習研究社）

余田義彦（同志社女子大学） 米澤宣義（工学院大学）

オブザーバ：

清水康敬（メディア教育開発センター） 赤堀侃司（東京工業大学）

# 日本教育工学会第 21 回全国大会

The 20th Conference on Educational Technology

工学 太郎

Taro KOUGAKU

徳島大学

TOKUSHIMA UNIVERSITY

< あらまし > 日本教育工学会第 21 回全国大会が平成 17 年 9 月 23 日(金)～25 日(日)の 3 日間、徳島大学において開催される。JSET ホームページから、オンラインで、原稿を提出していただくことになるので、大会での発表を希望している会員は、その手続きを本文でご確認いただきたい。なお、課題研究、一般研究、English Session のいずれの発表の場合にも、原稿の提出締切は、平成 17 年 7 月 29 日(金)である。原稿は、オフセット印刷をする都合上、マージン等の書式を遵守して作成すること。また、写真や図版は、直接プリントするか、貼り付けていただきたい。

< キーワード > 下のキーワード一覧を参考に、5～6 個のキーワードを列挙すること。

本文は 2 段組にしてください。

## キーワード一覧 関連すると思われるキーワードを列挙してあります。記入の参考にして下さい。

教育目標	カリキュラム	教育課程	総合的な学習の時間	自己学習力	
教育情報	C A I	教育情報処理	データ解析	数理モデル	
シミュレーション	資料収集	データ解析ツール	情報教育	情報リテラシー	
情報処理システム	プログラミング言語		情報処理教育	図書館情報学	
学校事務処理	統計処理	情報検索	データベース	情報管理	システム評価
標準化	システム設計	システム開発	ネットワーク	Web 利用	インターネット
Eメール	情報倫理	インターネット倫理		著作権	
知識ベース	知識工学	知的学習支援システム	訓練支援システム	学習者モデル	
思考モデル	知識表現	推論機構	知識獲得	言語インタフェース	
エキスパートシステム		人工知能	認知発達	知的インタフェース	
テキストマイニング		データマイニング	思考の外化	バーチャルリアリティ	
教育メディア	教材管理	教材開発	教具開発	教育機器管理	学習コンテンツ
インストラクショナルデザイン		教育ソフトウェア開発			ヒューマンインタフェース
教育機器利用	遠隔教育・学習	放送教育	視聴覚教育	メディア教育	
マルチメディア	学習環境	コミュニケーション		メディアリテラシー	
教授法	授業スキル	学習スキル	教育評価	学力調査	教育統計
教育測定	評価項目	テスト	学力	知能	適性
性格	意欲	学習指導	授業研究	授業分析	授業設計
授業実践	生徒指導	生活指導	進路指導	教育方法	教育工学
協調学習	CSCL	グループ学習	研究方法論	質的研究	
教育経営	学級経営	教育施設	学校開放	学校規模	
教育設備	オープンスペース	学習環境	校具	学校保健	管理組織
教育施策	教育制度				
企業内教育	社会人教育	生涯学習	教師教育	現職教育	幼児教育
幼稚園教育	学校教育	小学校教育	中学校教育	高等学校教育	高専教育
大学教育	高等教育	技術者教育	教科教育	養護教育	特別支援教育
治療教育	語学教育	日本語教育	国際理解教育	看護教育	福祉教育
自己啓発	自己評価	O J T	人材開発	野外学習	国際協力

## 投稿論文の査読希望種別「論文または資料」の廃止について

編集委員会

投稿論文の種別である、査読希望種別の選択肢から「論文または資料」を2005年8月1日より廃止致します。

本種別は、論文としては採録できないが資料としては掲載可能と判定された論文を、返戻手続きを経ずに迅速に査読が進められるようにするために、2002年7月12日から投稿時に著者が選択できるようにしました。本種別を設定以来、多数の論文がこの種別で投稿され、論文誌の活性化に貢献しました。

しかし、投稿数が増えるに従い、判定が複雑であるため処理に時間が掛かるようになってきました。また、論文と資料の二通りの条件が必要であるため、査読者にも労力をお掛けしております。

このたび、電子投稿が導入されるなど、編集業務が迅速化されて当初の問題点は改善されてきましたので、「論文または資料」の種別を廃止することに致しました。

なお、従来通り、論文としては採録できなくても、資料として採録可能であると判断されるものについては、その旨を明記し、再投稿を積極的に働きかけるように致します。

これらの点をご理解頂き、御了承下さいますようお願い致します。

今後とも、論文誌への積極的なご投稿をお願い致します。

以上

## 事務局移転のお知らせ

事務局

本学会事務局は、2005年7月より下記の新事務局に移転いたしました。

	新	旧
住 所	〒141 - 0031 東京都品川区西五反田1 - 13 - 7 マルキビル 日本教育工学会事務局	〒105 - 0001 東京都港区虎ノ門1 - 17 - 1 虎ノ門5森ビル2階 日本教育工学会事務局
電話・FAX	03 - 5740 - 9505	03 - 5251 - 2133
郵便振替口座	口座番号:00180 - 2 - 539055 加入者名:日本教育工学会	口座番号:00180 - 0 - 111042 加入者名:日本教育工学会
電子メール	office@jset.gr.jp (変更なし)	
ホームページ	http://www.jset.gr.jp/ (変更なし)	

以上



## 研究会の開催

## テーマ e-Learning と情報教育

日 時：2005年7月23日(土)

会 場：専修大学 生田キャンパス(川崎市) 8号館 1階 811教室

開催担当：香山瑞恵(専修大学)

研究会は当日受付にて同研究会の報告集(1,000円)をご購入いただければ、一般の方でも参加可能です。

プログラム：

発表時間：発表1件につき25分(発表20分程度、質疑5分程度)の持ち時間です。

開会挨拶・諸連絡 9:00-9:10

午前の部1(9:10-10:25)

- (1) 普通教科「情報A」の教科書の記述内容の変化 - 平成15年度版教科書と平成17年度版教科書との比較 - 永田奈央美(専修大学大学院経営学研究科), 香山瑞恵(専修大学ネットワーク情報学部)
- (2) 普通教科「情報B」の教科書の記述内容の変化 - 平成15年度版教科書と平成17年度版教科書との比較 - 高谷知憲・香山瑞恵(専修大学ネットワーク情報学部)
- (3) 普通教科「情報C」の教科書の記述内容の変化 - 平成15年度版教科書と平成17年度版教科書との比較 - 高橋正憲(専修大学大学院経営学研究科), 香山瑞恵(専修大学ネットワーク情報学部)

午前の部2(10:35-12:15)

- (4) 企業内教育におけるeラーニングの活用 - 人事教育担当者に対するインタビュー調査に基づいて - 菅原良(東北大学大学院教育情報学教育部), 村木英治(東北大学大学院教育情報学研究部)
- (5) 働きながら学ぶ現職教師のための遠隔学習コースの開発と試行 - 「働く場」の特質を考慮したインタラクティブな設計 - 益子典文・加藤直樹・村瀬康一郎(岐阜大学総合情報メディアセンター)
- (6) 「情報」の基礎的内容に関する理解度の高校生と大学生との比較 大曾根匡・植竹朋文・竹村憲郎(専修大学経営学部)
- (7) 論理的思考の獲得を目的とした情報リテラシー教育の試み 佐々木典彰・菅原良(東北大学大学院教育情報学教育部), 佐藤喜一(宮城工業高等専門学校), 村木英治(東北大学大学院教育情報学研究部)

----- お昼休み(12:15~13:15) -----

午後の部1(13:15-14:30)

- (8) 専門教科「情報」における教育課程と指導法 川畑由彦(東京都立新宿山吹高等学校)
- (9) 「情報C」の学習によるネット上の「影」への対処の有効性 泊弘光(兵庫教育大学大学院), 長瀬久明・成田滋(兵庫教育大学)
- (10) 教科「情報」における科学的理解のための教材の開発 天良和男(東京都立駒場高等学校)

午後の部2(公開討論会)(14:40-17:10)

テーマ：教科「情報」3年目の現状 - “町のパソコン教室以下” 批判への現場からの回答 -

報告者：埼玉県・東京都・神奈川県教科情報担当教諭各2名

コーディネータ：香山瑞恵(専修大学ネットワーク情報学部), 稲垣忠(東北学院大学教養学部)

15年度以降に採用された新人先生が中心となり報告を行います。各報告者から10分程度の実践報告をいただきます。その後、情報教育ベテラン先生を含むフロアを交えたディスカッションを行います。

閉会挨拶・諸連絡 17:10~17:20

懇親会(学内) 17:30 - 19:00

会場：専修大学生田キャンパス 〒214-8580 川崎市多摩区東三田 2-1-1 8号館 1階 811教室

交通案内

- \* 向ヶ丘遊園駅(小田急線)北口より「専修大学前」行きバスで約10分 終点下車
- \* 向ヶ丘遊園駅(小田急線)南口より徒歩18分
- \* あざみ野駅(東急田園都市線・横浜市営地下鉄)より「向ヶ丘遊園駅」行きバスで約25分 正門へは専修大学入口・川崎ゴルフ場入口下車

http://www.acc.senshu-u.ac.jp/koho/campus/index06.html (交通案内とキャンパス案内を確認頂けます)

連絡先：香山瑞恵(kayama@isc.senshu-u.ac.jp) 044-911-0570

## 研究報告集年間購読のお勧め

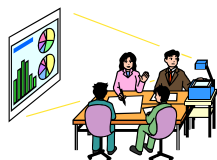


研究会の報告集は、会員・非会員に関係なく年間予約により購読できます。予約価格は年5冊、各研究会平均13件程度(平成16年度実績)の研究発表で、年間合計500ページ前後になります。価格は郵送料込みで3,500円です(当日売りは割高になります)。詳しくは、学会事務局までお問い合わせください。

【学会事務局】〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

TEL/FAX: 03-5740-9505 E-mail: office@jset.gr.jp

## 研究会の発表募集



### ICT活用と教育評価

日 時：2005年11月19日（土）

会 場：鳥取大学

開催担当：西田英樹（鳥取大学）

申込締切：2005年 9月19日（月）

原稿提出：2005年10月19日（水）

\* 原稿は、PDF形式で電子的に提出することもできます。

#### 募集内容：

学校教育に限らずe-learningを利用した生涯教育などを含めて、ICTを内容とする授業やICTを利用した授業の評価、ICTを利用した評価の方法、など、ICTと教育評価に関する内容をテーマとした発表を幅広く募集いたします。

#### 応募方法：

研究会Web Pageの「発表申し込みフォーム」よりお申し込みください。

#### 申し込み締切：

2005年 9月19日（月）

締切後、申し込まれた方宛に発表の採択結果を電子メールにて連絡いたします。また、採択された方には執筆要項を電子メールにて送付いたします。

#### 原稿提出期限：

2005年10月19日（水）必着（厳守！）をお願いいたします。執筆要項に記載された宛先にお送りください。なお、PDF形式（サイズは1Mバイト未満）での原稿の電子的な提出を受け付けます。提出先は、学会事務局（jet-submit@nime.ac.jp）です。電子メールに添付して送ってください。

## 研究会の今後の予定

今後の研究会開催予定は下記の通りです。今年度からは、全国大会が開催される9月には研究会を開催せず、年5回の開催となります。

2006年1月	学習理論と学習環境の拡張	大阪大学
2006年3月	教育の情報化～ポスト2005年を志向する教育実践～	金沢大学
2006年5月	子どもとメディア	奈良教育大学

## 研究会委員会からのお知らせ

研究会に関するご意見・ご希望、魅力的な研究会テーマの提案、研究会での企画などをお気軽に研究会幹事、委員までご連絡ください。連絡先は次の通りです。

（研究会全般、研究会Web Page、研究会発表の申込、変更等、原稿執筆）に関するお問い合わせ

研究会幹事 jet-branch@nime.ac.jp

（年間購読、原稿提出）に関するお問い合わせ

学会事務局 office@jset.gr.jp

## 研究会の報告

本研究会のテーマ「多様な遠隔教育の実践と評価」に関連した発表と一般発表の併せて10件の研究発表が午前10時から行われました。

テーマに関連した発表を大別すると、（1）同期型の遠隔教育：テレビ会議の利用と、（2）非同期型の遠隔教育：インターネットのブログの利用に分けることができ、（1）では、FOMAとインターネットを使った小学校の学校間交流、国内の大学と中国の大学とのテレビ会議による交流の事例と、テレビ会議システム更新に関する事例が、（2）では、レポートの学生間ピア・レビューの事例、講義型授業の補完としてブログを利用した事例が発表されました。また、一般発表では教師教育、教育実習、教科「情報」、システム開発などの発表が行われました。なお、午前の座長を向後先生（早稲田大学）、午後の座長を藤村先生（鳴門教育大学）と森広先生（兵庫教育大学）にいただいたことを、ここに記して感謝申し上げます。

春とは思えない寒さが続く中、前日は大荒れの天気で遠方からの札幌入りが心配されましたが、当日やっと春めいた天気のもと、九州、関西、関東、東北など全国各地からの参加者と札幌市および道内各地からの参加者20名により、熱心な研究発表と質疑応答が行われました。実は本研究会が、会場教室に導入した無線LANの本格運用の皮切りとなり、その機能を無事に発揮したようです。午後4時過ぎにはプログラムの予定どおり、研究会を代表し藤村先生による挨拶で研究会を閉じることができました。

5月研究会開催担当：瀬川良明（北海道教育大学教育実践総合センター）



# 日本教育工学会 2005 年度秋の合宿研究会のご案内 (第 2 報)

## テーマ 「学力向上のために授業改善をどう進めるか」

「学力向上」という視点から、日々の授業実践を振り返り、明日からの授業改善に向けて学ぶためのワークショップ型合宿研究会です。学力とは何か、学力向上のための授業やカリキュラムはどうあるべきかについて問い直し、授業研究を行なうワークショップに時間をかけて取り組み、その方法論についても学びます。多くの実践者、研究者の方々にご参加いただき、参加者相互で刺激しあって明日のより良い授業を考えましょう。プログラムの概要(予定)は次のとおりです。(今後、変更があり得ることをご承知ください。)

日時：10月15日(土)13:00 16日(日)12:00

会場：和歌山県立情報交流センターBig-U <http://www.big-u.jp/>

〒646-0011 和歌山県田辺市新庄町 3353-9 Tel.0739-26-4111

遠来の方につきましては、地元有志により、南紀白浜空港および白浜駅と会場間を送迎する予定です。また、会場と宿泊場所の間の送迎も行います。

宿泊場所：白浜温泉 湯処むろべ(教育互助会の宿) <http://www.cypress.ne.jp/murobe/>

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 1997 Tel.0739-42-3300

参加費等：参加費1000円、宿泊費6700円、懇親会費6300円

近畿の小中学校教職員の方は共済組合、互助会の補助が利用可能です。

定員：80名(宿泊定員40名程度)

10月15日(土)

<基調講演&ワークショップ>

「ワークショップ研修の考え方と『真の学力』明確化・具現化ワークショップ」

村川雅弘(鳴門教育大学)

ワークショップ研修の考え方や進め方について簡単にお話しした後に、実際にワークショップを体験してもらいます。その時の課題は「私たちがこれからの子どもたちに求める学力を具体的に考えよう!」とします。PISA調査なども踏まえて、5-6人程度のチームに分かれて「はぐくみたい力」と「そのための具体的な手だて」について整理、発表、情報交換を行います。次につづく3つの授業研究ワークショップにつながればと考えます。

<授業研究のワークショップ> いずれかを選んでご参加ください。

(1) ワorkshop型授業分析による子どもの「学び」の追究

村川雅弘(鳴門教育大学)、山中昭岳(熊野川町立熊野川小学校)

本ワークショップでは和歌山県の熊野川小学校の山中昭岳先生の総合的な学習の実践(環境教育)を採り上げ、その様子を録画したものをワークショップ型授業分析により検討します。

(2) 「授業力」の自己点検・評価

木原俊行(大阪市立大学)、桑木義典(御坊市立藤田小学校)

算数の授業実践事例から、子どもたちの学力向上に資する、教師の「授業力」を洗い出します。また、それを踏まえながら、参加者に自らの「授業力」を点検してもらい、その改善ポイントを同定してもらいます。

(3) ウェブ・ティーチング・ポートフォリオ 永田智子(兵庫教育大学)

参加者自身の実践を振り返るためのウェブ・ティーチング・ポートフォリオをつくります。考えてみたい自分の実践の指導案・児童生徒の学習物などをデジタルデータでご用意ください。

<ナイトセッション>

「教育現場の悩みと、その原因および解決策についてのワークショップ」

長谷川元洋(金城学院大学)、高橋純(富山大学)、豊田充崇(和歌山大学)

ナイトセッションでも、ワークショップを行う予定です。お互いに各教育現場で抱えている悩みを出し合い、その原因は何か?、どうすれば解決できるのか?をワークショップ形式で、検討します。

10月16日(日)

<ワークショップ解説とディスカッション>

村川雅弘(鳴門教育大学)、木原俊行(大阪市立大学)、永田智子(兵庫教育大学)

コーディネータ：南部昌敏(上越教育大学)

<特別講演「本当の学力を伸ばす授業」>

佐伯 胖(青山学院大学)

申し込み：下記のページからお願いします。こちらに最新情報を掲載しております。

[http://center.edu.wakayama-u.ac.jp/jset\\_aki/](http://center.edu.wakayama-u.ac.jp/jset_aki/)

問い合わせ先：野中陽一(和歌山大学) nonaka@center.wakayama-u.ac.jp

# 日本教育工学会第 10 期第 16 回理事会議事録

日 時：平成 17 年 5 月 14 日（土）15:00～17:00

場 所：社団法人日本教育工学振興会（JAPET）

出 席：清水康敬会長、近藤 勲副会長、池田 満、木原俊行、黒上晴夫、向後千春、坂元 昂、  
澤本和子、三宮真智子、鈴木克明、永岡慶三、中山 実、南部昌敏、堀田龍也、前迫孝憲、小林常一  
事務局次長、オブザーバ：赤堀侃司次期会長

1. 第 10 期第 15 回理事会議事録の承認 資料 1 の通り承認した。
2. 会員の移動について 資料 2 に基づき、以下を承認した。
  - (1) 新入会員 38 名（正会員 17 名、学生会員 21 名）、(2) 退会会員 64 名（正会員 47 名、准会員 3 名、学生会員 13 名、特殊会員 1 団体）、(3) 休会会員 1 名（正会員 1 名）、(4) 種別変更 27 名（正会員へ 22 名、准会員へ 3 名、学生会員へ 2 名）
3. 各種委員会報告について
  - (1) 編集委員会 中山委員より資料 3 に基づき論文誌の編集状況の説明があった。また次期委員会への送りとして次の 3 点が紹介された。1) 編集委員の増員、2) 編集委員会規則の明確化、3) 編集担当理事の増員。
  - (2) 企画委員会 南部委員より資料 4 に基づき、6 月のシンポジウムおよび秋の合宿研究会（和歌山）第一報の説明があった。
  - (3) 研究会委員会 黒上委員より、資料 7 に基づき今年度予定の決定状況の説明があった。
  - (4) 大会企画委員会 木原委員からシンポジウムの紹介、清水会長からクレジットカード支払いやオンライン投稿システムの説明、鈴木委員長からはプログラム編成委員会の予定、赤堀次期会長へオブザーバ参加の依頼が行われた。
  - (5) 学会ホームページ 清水会長から年会費のオンライン支払いも可能なシステムを検討中であることが紹介された。
  - (6) 顕彰委員会 三宮委員長から今年度の進行状況について説明があり、顕彰投票率向上の方策や選考メンバーの増員についての検討を行った。
  - (7) 選挙管理委員会 澤本委員長より資料 5 に基づき、会長（次期）指名の評議員候補について報告された。また赤堀次期会長から、候補者名簿登載状況や得票結果を配慮して指名を行ったことが報告された。
  - (8) 20 周年記念事業 清水会長より、無事終了したことが報告された。
  - (9) ニュースレター委員会 堀田委員長より、資料 6 に基づき、Vol.137、Vol.138 の台割案が紹介された。
4. 通常総会の議題と進め方について  
清水会長より資料 7 に基づき、「収入の部『論文別刷代』」が増額していることや、学会の情報化対応システムを開発し、今後、クレジットカード支払いシステムと会員データベースを連動させ、毎月の会計管理が可能なシステムへ拡張したい等の説明があり検討を行った。
5. 定款の改定と名称変更について  
清水会長より資料 8 に基づき、事務局移転に伴う定款改定について検討を行った。
6. その他
  - ・清水会長より、jet 名のメールアドレスを急遽 jset 名へ変更したことが報告された。
  - ・協賛名義使用の承諾について、以下を承認した。
    - 第 7 回 DSPS 教育者会議、教育システム情報学会 30 周年記念全国大会、
    - 日本情報教育開発協議会（JADIE）第 1 回全国大会、全国マルチメディア学習教材コンテスト
  - ・今後の理事会の日程について  
第 10 期第 17 回/第 11 期第 1 回理事会・評議員会（通常総会）：平成 17 年 6 月 18 日（土）

以上

## ■ 正 会 員 11名

清川 康雄(鹿児島県立武岡台高等学校)  
 澤田 敬人(静岡県立大学)  
 塚野 弘明(岩手大学)  
 辻 光宏(関西大学)  
 寺田 智美(金沢学院大学)  
 中谷 桃子  
 (NTTサイバーソリューション研究所)  
 星田 昌紀(千葉商科大学)  
 三木 大史(賢明女子学院短期大学)  
 水内 豊和(富山大学)  
 森田 和夫  
 (社団法人 日本教育工学振興会)  
 山下 直子(香川大学)

## ■ 学 生 会 員 24名

青木 慎太郎(立命館大学大学院)  
 有馬 透(佛教大学)  
 石原 正樹(筑波大学)  
 植村 泰人(東京理科大学)  
 大川内 隆朗(東京大学大学院)  
 大野 恵理  
 (Northern Arizona University)  
 大屋 敦聖(青山学院大学大学院)  
 尾崎 浩和(香川大学)  
 北川 裕子(大阪市立大学大学院)  
 境野 大地(上越教育大学大学院)  
 関 紀彦(東京理科大学大学院)  
 五月女 保幸(埼玉大学大学院)  
 高志 修(香川大学大学院)

津賀 宗充(筑波大学大学院)  
 中井 良(早稲田大学大学院)  
 能瀬 高明(徳島大学)  
 花房 佑馬(香川大学大学院)  
 久坂 哲也(鳴門教育大学大学院)  
 藤崎 哲雄(早稲田大学)  
 茂木 浩輔(東北大学大学院)  
 山之内 晁充(東京工業大学)  
 山本 知加恵(早稲田大学大学院)  
 李 凱(東京工業大学)  
 Md. Jusoh Safiza Markhayu Binti  
 (東京工業大学大学院)

## 学会日誌

- 7月23日(土)研究会「e-Learningと情報教育」(専修大学)  
 9月23日(金)～25日(日)第21回全国大会(徳島大学)  
 10月15日(土)～16日(日)秋の合宿研究会(和歌山県立情報交流センター)  
 11月19日(土)研究会「ICT活用と教育評価」(鳥取大学)

## お問い合わせ先(Eメールアドレス)

論文投稿に関するお問い合わせ・・・編集委員会(editor@jset.gr.jp)  
 研究会の開催についてのお問い合わせ・・・研究会事務局(jet-branch@nime.ac.jp)  
 ニュースレター編集に関するお問い合わせ・・・ニュースレター編集委員会  
 (newsletter@jset.gr.jp)  
 その他の掲載記事に関するお問い合わせ・・・学会事務局(office@jset.gr.jp)

## ニュースレター編集委員会

編集長:清水康敬, 編集委員長:堀田龍也, 委員:山西潤一, 石塚丈晴, 高橋 純  
 静岡大学情報学部堀田研究室 E-mail: newsletter@jset.gr.jp

## 日本教育工学会ニュースレター No.138

2005年7月13日

発行人 赤堀 侃司

発行所 日本教育工学会事務局

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

TEL / FAX: 03-5740-9505 E-mail: office@jset.gr.jp

http://www.jset.gr.jp/

郵便振替 00180-2-539055